

難治性腹水に対する腹水ろ過濃縮再静注法

CART

● 難治性腹水とは

食事療法（塩分制限・水分摂取制限）や薬物療法を行ってもお腹にたくさん水が貯まってしまうことです。

● 腹水とは

お腹にある腹腔とよばれるすき間には通常 20~50m l の水がへ入っていますが、さまざまな病気の状態で通常よりたくさん貯まった状態を腹水といいます。

● 腹水はなぜ貯まる？

非炎症性の腹水：アルブミンの不足、門脈圧の上昇、腎臓での水・ナトリウムの排泄低下などにより貯まります。

炎症性の腹水：炎症性の病気や悪性腫瘍により、血管の透過性が増して、血管から血液成分や水分がしみ出します。

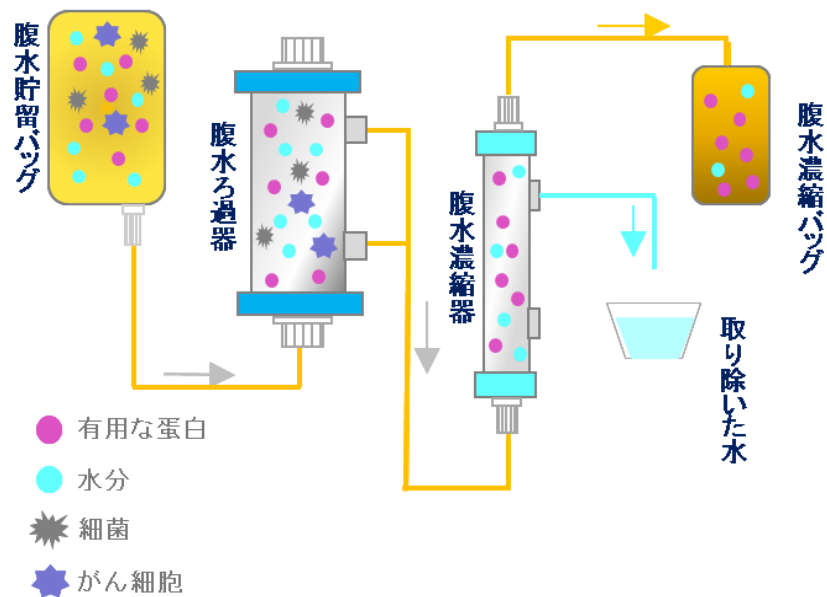
● 治療方法

当院では、人工透析のノウハウを活かして難治性腹水の治療のひとつである腹水ろ過濃縮再静注法（CART）を行うことが可能な施設です。

● 治療のながれ

- ①患者さんにはベッドに横になってもらい、エコーで確認しながらお腹に針を刺して腹水をバッグに取り出します。腹水を取り出すのに約 1~3 時間かかります。
- ②貯留バッグに貯められた腹水を 2つのフィルターに通します。まず 1つめの腹水ろ過器で腹水中の癌細胞や細菌を除去します。2つめのフィルターで水を取り出し、有用な蛋白は腹水濃縮バッグに残していきます。
- ③濃縮された腹水を、患者さんに点滴をして体に戻します。

CARTの仕組み



● CARTの特徴

たくさん貯まった腹水を取り出し、有用な蛋白は体に戻すことで腹部膨満感、食欲不振、呼吸困難、便秘、尿量減少などの症状が軽減されます。また自分のお腹から取り出した蛋白を体に戻すので、献血由来のアルブミン製剤を節約できますし、未知の病原体に感染する可能性があります。

● 治療に使用するフィルター



取り出した腹水



濃縮された腹水



● その他に関してはこちらもお読みください。

